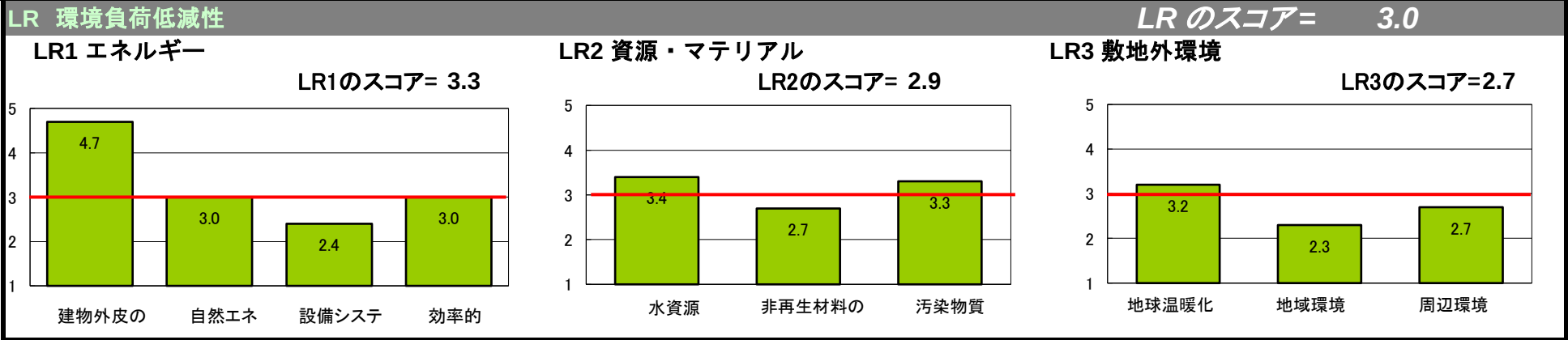
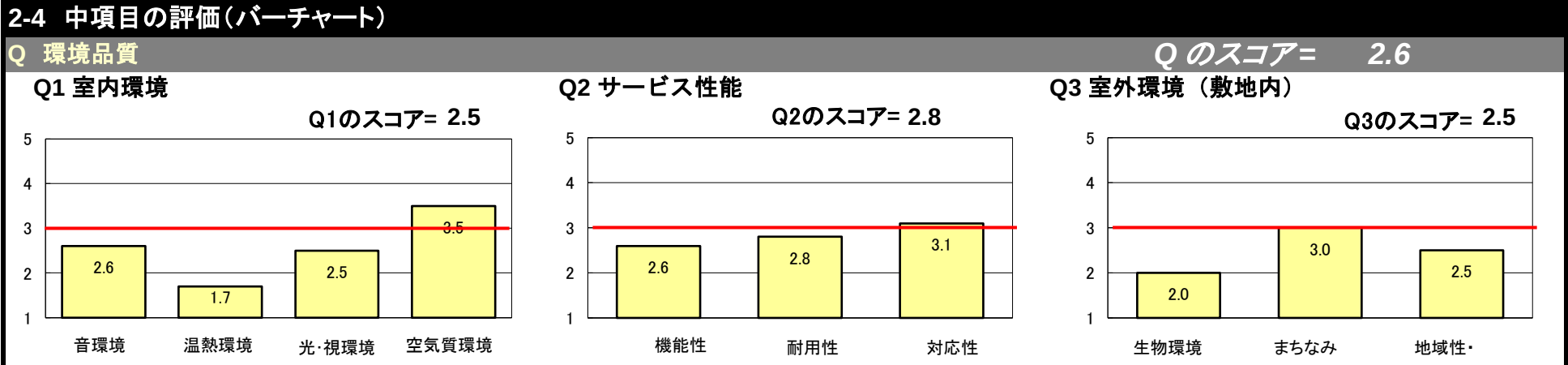
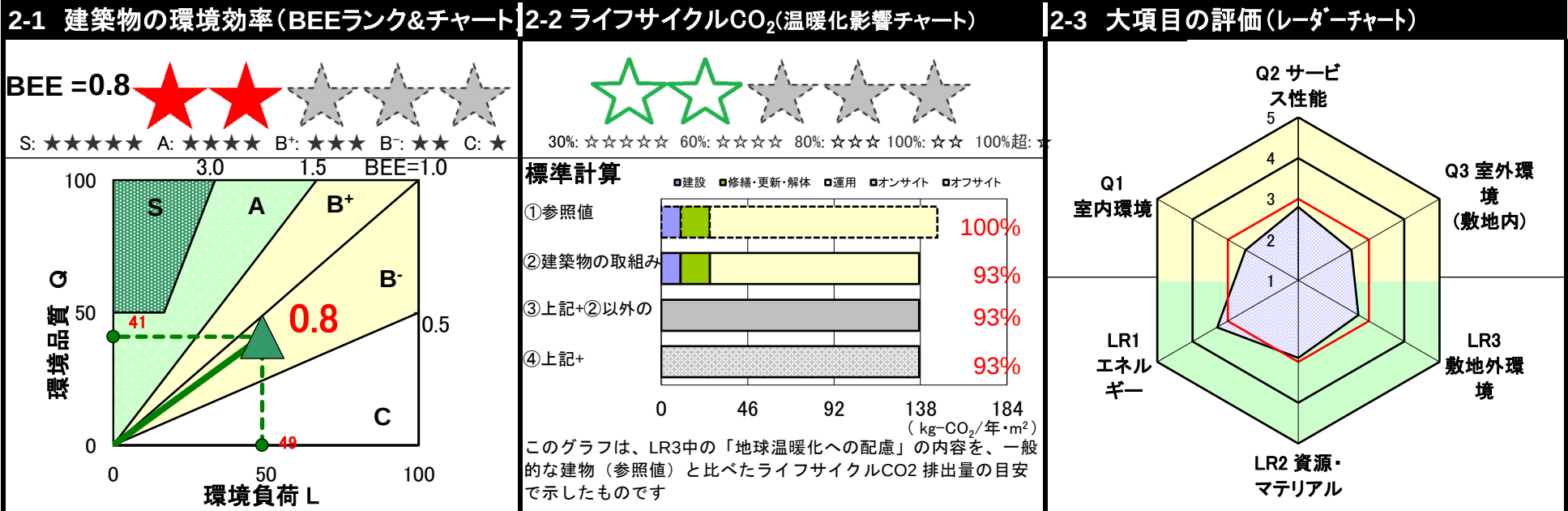




評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人愛知会 家田病院建替	階数	地上5階
建設地	愛知県豊田市歌部西町城ヶ廻33-1,34-1,35-1,35-2,36-1,36-2,36-3,37-1,37-2,37-16	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	775 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年1月10日
敷地面積	4,118 m ²	作成者	石田 壽
建築面積	2,320 m ²	確認日	2022年1月13日
延床面積	7,895 m ²	確認者	家田浩男



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.2	2.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	37.4 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	11.5 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.8	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
医療法人愛知会 家田病院建替

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境					0.40			-	2.5
1 音環境			0.1	2.6	0.15	2.6	2.6	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
1.2 遮音			0.4	3.0	0.40		3.0	0.40	
1 開口部遮音性能			-	3.0	0.40		3.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.60		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-		3.0	0.20	
1.3 吸音			-	1.0	0.20		1.0	0.20	
2 温熱環境			0.3	1.7	0.35	1.5	1.5	1.00	1.7
2.1 室温制御			0.5	2.5	0.50	2.1	2.1	0.50	
1 室温			3.0	3.0	0.38		3.0	0.57	
2 外皮性能			3.0	1.0	0.25		1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20		1.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	1.0	0.30		1.0	0.30	
3 光・視環境			0.2	2.3	0.25	3.3	3.3	1.00	2.5
3.1 屋光利用			0.3	2.9	0.30	4.2	4.2	0.30	
1 屋光率		住居・宿泊部分: 1.25% ≤ [屋光率]。	3.0	2.9	0.60		5.0	0.60	
2 方位別開口			-	-	-		3.0	-	
3 屋光利用設備			3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 グレア対策			0.3	1.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
1 屋光制御			5.0	1.0	1.00		3.0	1.00	
3.3 照度			3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境			0.2	3.6	0.25	3.5	3.5	1.00	3.5
4.1 発生源対策			0.5	4.0	0.50	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気			0.3	2.0	0.30	2.6	2.6	0.38	
1 換気量			3.0	1.0	0.50		1.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	3.0	-	-		4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理			0.2	5.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御		建物内は禁煙ですので、レベル5になります。	3.0	5.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	-	2.8
1 機能性			0.4	2.4	0.40	4.0	4.0	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室10㎡/床以上。	3.0	-	-		5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-		-	-	
3 バリアフリー計画		独自	3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性			0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)		病室の天井高2.5m以上。	3.0	-	-		4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-		-	-	
3 内装計画			3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
1.3 維持管理			0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性			0.3	2.8	0.31	-	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	2.7	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		②	-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備		②	3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.1	0.29	3.2	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			②	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	0.3	3.4	0.31	3.4	3.4	0.50	
1	階高のゆとり	-			3.0	0.60	-	3.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	3.0			4.0	0.40	-	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	-			3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0			3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性	3.0			3.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0			3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.30	-	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					-	-	0.40	-	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m = 0.83	3.0	4.7	0.30	-	-	-	-	4.7
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			3.0	2.4	0.30	-	-	-	-	2.4
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減	② 独自	-	-	2.0	0.07	-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	3.0	0.24	-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	2.0	0.05	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS使用している。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	0.50	-	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して93%。	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮					0.3	2.3	0.33	-	-	-	2.3
2.1	大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-	
2	污水处理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	1.0	0.70	-	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	-	

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

■重点項目スコア算出式	
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。	
①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化	
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点	
②資源の有効活用	$\frac{\text{（評価点} \times \text{全体に対する重み）の総和}}{\text{重みの総和}}$
④地域材の活用	
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1	

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 医療法人愛知会 家田病院建替

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	住居・宿泊部分: $1.25\% \leq [\text{昼光率}]$ 。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。
Q2 サービス性能	個室 $10\text{m}^2/\text{床}$ 以上。 病室の天井高 2.5m 以上。 $0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$ 。
Q3 室外環境(敷地内)	建物を周辺のまちなみや風景に調和させている」「植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	$\text{BPI}_{\text{m}} = 0.83$
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。 $\text{ODP}=0$ 、 $\text{GWP}=3$ の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して93%。
その他	特になし。